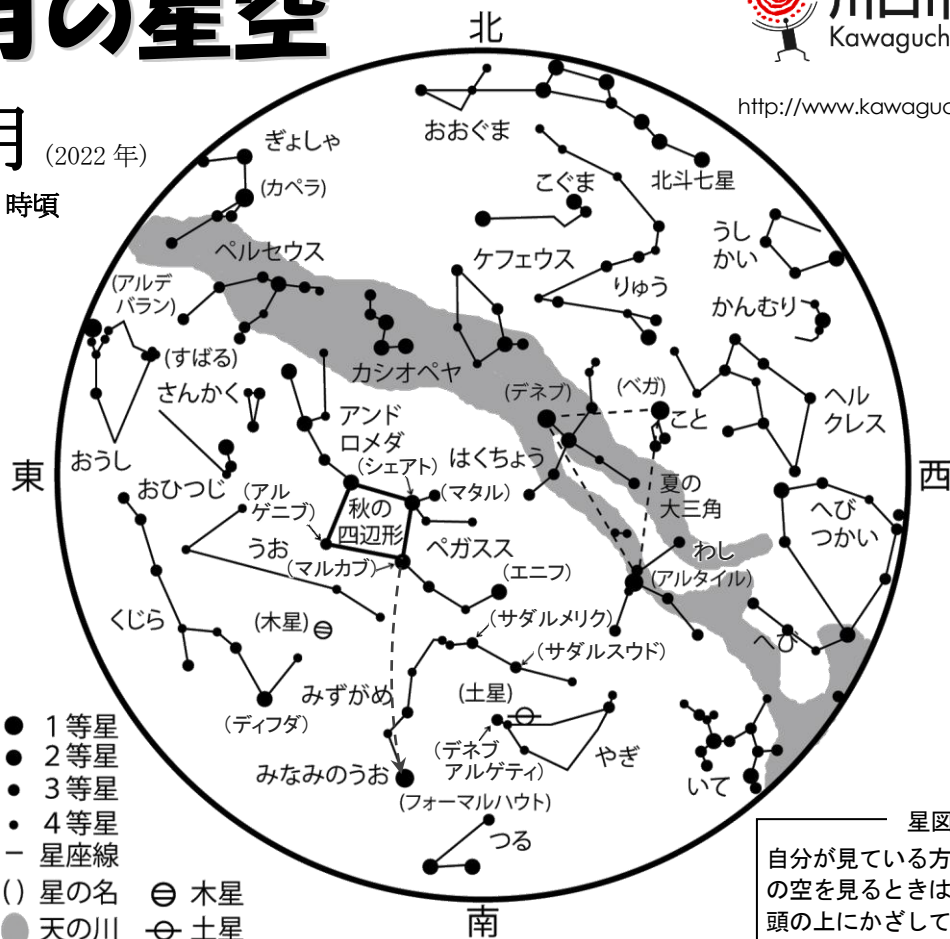


今月の星空



10月 (2022年)

中旬 20 時頃



月 齢 ●上弦 3日、○満月 10日、●下弦 18日、●新月 25日

惑星情報

水星 日の出前 東(おとめ座 0→-1等)※上旬(6日~13日)頃
火星 真夜中 東(おうし座 -1等)
木星 夜のはじめ頃 南東(うお座 -3等)
土星 夜のはじめ頃 南(やぎ座 1等)

☆秋の四辺形と十三夜

秋の四辺形が高く昇り、夜空は秋本番を迎えています。秋の四辺形は2等~3等星程度の星であるため、夏の大きな三角ほど目立ちませんが、今年は-3等の木星が近くにあり見つけやすいでしょう。木星からやや西に離れた南の空には土星(1等)も見つかります。秋の四辺形を見つけたら、星図のとおり、秋の四辺形の一辺を延ばし、みなみのうお座のフォーマルハウト(1等)へ。その他、秋の四辺形から北東につながるアンドロメダ座や北側にある“W形”のカシオペヤ座は明るい星の多い星座です。

また、5日、6日は半月(上弦)過ぎの月が土星の近くに、8日、9日は満月前の月が木星の近くに来てきます。8日は「十三夜」(旧暦9月13日)と呼ばれる、中秋の名月(十五夜)※と並ぶお月見の日です。月と木星の共演を楽しみましょう。※中秋の名月は旧暦8月15日に出る月を指し、今年は9月10日。

☆どこまで見える?秋の星座

秋の四辺形の中で一番暗いアルゲニブ(2.8等)が見える空であれば、以下の星座の星も見えるはずです。星図を参考に、やや難易度の高い秋の星座探しにチャレンジしてみましょう。

□ペガサス座のエニフ(2.4等)…秋の四辺形のマルカブ(2.5等)とわし座のアルタイルの中間あたりにあるペガサスの頭(鼻)の星。マタル(2.9等)は、秋の四辺形のシェアトの近くにある前脚の星。

□みずがめ座のサダルスウド(2.9等)…ペガサス座のエニフの下方、土星との中間付近。その東(やや上方)にあるサダルメリク(3.0等)も同等の明るさ。

□やぎ座のデネブアルゲティ(2.9等)…土星(1等)のすぐ東(左)にある、やぎの尾を意味する星。

ワンポイント~雨季の訪れを告げるみずがめ座~

やぎ座*やみずがめ座、うお座など、秋の星座には水に関係する星座が多くあります。これは、星座が作られた当時のメソポタミア地方(現在のイラク付近)では、みずがめ座付近を太陽が通る頃が雨季であったためと言われています。みずがめ座の星々に、サダルメリク(王様の幸運)やサダルスウド(幸運の中の幸運)の名が付けられたのも、雨季が人々にとって重要であった表れかもしれません。*やぎ座は半分が魚の姿。